

「オホーツク網走花卉部会」におじゃましました

オホーツク総合振興局から、オホーツク網走花卉部会をご紹介します。

収穫・選定作業でお忙しい中、福嶋康高会長（大空町東藻琴）にお話しを伺いました。

○オホーツク網走花卉部会の歩み

オホーツク網走花卉部会は、東藻琴村農協花卉部会が平成20年2月にオホーツク網走農協と東藻琴村農協が合併したことによりオホーツク網走花卉部会となった部会です。

東藻琴村農協花卉部会は、25年ほど前に新規就農者として京都から来た福嶋会長等がカスミソウ等を作付けし、1年後研究会として立ち上げました。多いときでは20戸以上部会員がいましたが、花卉の作付をする人も減り、現在では7戸となっています。

宿根カスミソウをメインとしており、トルコギキョウやデルフィニウム、カーネーションを作付けしている方もいます。



選定中の福嶋会長夫妻



選定済みの宿根カスミソウ

○宿根カスミソウについて

宿根カスミソウはナデシコ科ギプソフィラ属の宿根多年草です。ベイビーズブレスとも呼ばれています。耐寒性があり、草丈は60～70cm程で約1～2cmの小さな花を大量に咲かせます。カスミソウは150種類ほどありますが、主に一年草のカスミソウと多年草の宿根カスミソウに分けられます。

東藻琴の宿根カスミソウは、道外で評価が高く、主に大阪のなにわ花市場に出荷しています。

東藻琴では、花卉の入門的な花であり、育てやすく、さらに大阪市場の会長からの勧めもあり作付をはじめました。病害は苗消毒をしていけばほとんどないそうです。

苗の定植は7月まで行い、平年は10月20日まで収穫します。今年は高温の影響を受け花が一気に咲いてしまったため、9月末から10月頭まで出荷する予定です。



ハウス内の宿根カスミソウ



収穫間際の宿根カスミソウ

○オホーツクあばしり花き部会の取り組み

宿根カスミソウはアルタイル、ベールスター、雪ん子等4品種を作付けしています。

月・水・金の週3回40～50ケースを出荷しています。多いときは60ケースほど出荷するとのことです。

出荷先は大阪市場に9割、旭川・釧路市場に1割出荷しています。大阪市場に出荷を始めた理由は、昔、ナガイモを出荷していたためだそうです。

福嶋会長は21棟のハウスで栽培し、4棟は越冬して6月下旬から7月末まで収穫します。17棟は5月に新たに定植し、越冬した4棟が終わった頃に収穫出来る様に管理しています。



出荷待ちの宿根カスミソウ



ハウス内の宿根カスミソウ

○雑記

カスミソウの魅力は？と福嶋会長に聞いてみると「ない！白ばかりで飽きてくる。」と笑いながら話していました。しかし、カスミソウに向き合う真剣な姿には愛情を込めて育てているのがひしひしと伝わってきます。

カスミソウは周りの花を引き立てるのに最適な脇役として冠婚葬祭等で使われています。もし花束にカスミソウが入っていたら、「このカスミソウもしかして東藻琴のかも」と思い出していただければと思います。

(平成24年9月取材 オホーツク総合振興局)